

杉並ユネスコ協会会報

147号

2022年
11月4日

Suginami UNESCO Association News Letter

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、
人の心の中に平和のとりでを築かなければならない

ユネスコ憲章前文より

- 心の中に平和の守りを固めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう



杉並ユネスコ協会

目次

特集 地球温暖化対策、待ったなし！……………2	中学生クラブ……………7
ユネスコ運動の日……………4	科学教室・活動予定……………8
ユネスコ教室……………6	



できる事から少しずつ？ いいえ、「今すぐ」行動を。

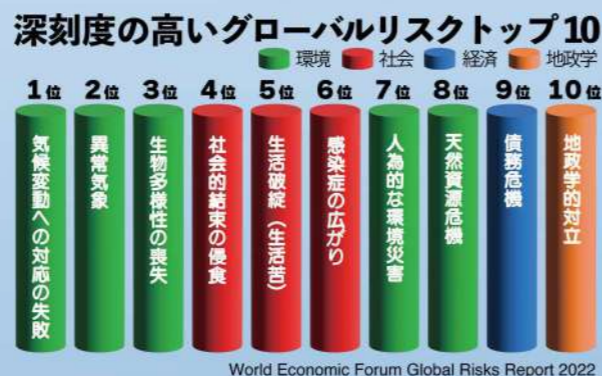
地球温暖化対策、待ったなし!

世界中の国々で直面する貧困、紛争、気候変動、人権、感染症など多くの課題を回避するために、持続可能な開発目標（SDGs）が定められてから7年が経ちました。2030年の目標達成期限までの折り返し地点にさしかかった今、果たして持続可能な世界へと向かっているのでしょうか。本特集では、もはや待ったなしの課題のひとつであり、気候変動をもたらしている「地球温暖化」について考えます。（西野裕代）

地球が悲鳴をあげている

2022年夏。日本列島は過去最短で梅雨が明け、記録的な猛暑に見舞われました。かつて経験したことのないような異常気象は、世界中で発生しています。ヨーロッパの干ばつは過去500年間で最悪を記録し、スペインやイタリアでは同時期の平均気温を10℃上回る猛暑が続き山火事が多数発生。アメリカや中国でも40℃を超える熱波が続きました。世界各地の干ばつによって穀物生産も大きな打撃を受け、食糧危機の加速も懸念されています。猛暑と水不足による被害が各地で拡大している一方、水害による大きな災害を受けた地域もあります。韓国では過去80年間で最多の雨量によって土砂崩れが多発し、パキスタンでは史上最悪レベルの大雨災害に見舞われ多くの命が奪われました。世界の年平均気温は、直近の8年間に観測史上最も高い記録を更新し続けています。国連のモハメド副事務総長が「人類の活動が自己破壊の連鎖に向かおうとしている」と述べた通り、気候変動は紛れもなく私たち自身が招いた現象です。自然界のバランスが人類の対応スピードよりもはるかに早く崩れていることを、私たちは今あらためて直視しなければなりません。

世界の有識者たちも、危機的な状況に警告を発しています。ダボス会議を主催するWEF（世界経済フォーラム）が発表しているグローバルリスクでは、今後10年間で最も深刻度の高い項目トップ10の内、環境問題が半数を占めています。前年度の「感染症」や「デジタル不平等」などの項目はランク外となり、「気候変動対策の失敗」が一位に浮上。一刻を争う状況の中で、対策の遅れが顕となりました。気候変動による異常気象は、経済に大きな損失をもたらし、命や健康、私たちの日常生活に最も直接的な影響を及ぼしており、早急の取り組みが必要です。



気候変動リスクの高い日本

日本は主要先進国の中でも言わずと知れた自然災害大国です。世界に占める国土面積はわずか0.25%であるにもかかわらず、マグニチュード6以上の地震の約23%が日本で発生しており、2019年以降の自然災害による被害額の21%を日本が占めています。

気温の上昇は1990年以降、全世界で頻繁にみられるようになり、世界の平均気温は100年あたり0.73℃上昇しています。対して日本は、1.2℃という諸外国よりも相当早いスピードで温暖化が進んでいます。これは地球温暖化による気温上昇率が比較的大きい北半球の中緯度に位置しているためと考えられています（気象庁）。

気象変動の被害が深刻視される中で重要なことは、「緩和」と「適応」の対策強化です。緩和とは、CO₂など温室効果ガスの排出量を減らし温暖化を緩和させること。適応とは、災害発生をいち早く察知して避難できるように準備し災害多発へ適応することを指します。

太古の昔から自然災害の対策に翻弄されてきた日本は、経験の蓄積によって防災対策が国際的にも高いレベルにあります。異常気象の度合いが増していくと予想されている今、あらためて防災への意識をもち、一人ひとりが日頃から緩和と適応の両輪を心掛け乗り切っていかなければならない正念場なのです。

私たちは気候変動を抑制できる最後の世代

温暖化は、専門家の予測をはるかに上回るスピードで進んでいます。2015年のパリ協定で採択された気温上昇の目標値はわずか3年で修正され、さらに昨年、IPCC（国連気候変動に関する政府間パネル）は「今のままでは20年以内に産業革命以降の気温上昇が1.5℃に到達する」とし、脱炭素化の加速を各国に促しました。

1.5℃というのは、人類の生活のために守らなければならない限界値です。例えば気温が1.5℃上昇した場合、珊瑚礁の70～90%が、2℃上昇すれば99%が消失するとされています（WWF ジャパン）。すでに1.1℃上昇しているため、猶予は0.4℃しかないのです。遅くとも2025年までにCO₂排出量を減少に転じさせ、2030年までに43%削減する必要があるとされています。まさに今、一丸となって気温上昇に歯止めをかけなければならない段階に到達しているのです。

この緊急事態の中で、国内785の自治体が「2050年までにCO₂排出実質ゼロ」を表明し（2022年9月30日時点）、取り組みの強化を図っています。

一方、民間企業の動きも広がっています。東京証券取引所では、CO₂の排出量取引を行う市場の実証が9月より開始されました。これは、カーボン・クレジットと呼ばれるもので、企業が森林保護や再生可能エネルギー導入などで削減したCO₂排出量を市場に売り出し、なかなか削減できない企業が購入することで削減不足分を相殺することができる、相互メリットのある仕組みです。世界で導入が進んでおり、脱炭素を大きく後押しすることが期待されています。

お知らせ ユネスコのつどい講演会 「気象キャスターと考える地球温暖化」

日時：2023年2月5日（日）14:00～
講師：寺川奈津美氏（気象予報士、NPO法人気象キャスターネットワーク理事、元フジテレビ気象キャスター）
会場：阿佐谷地域区民センター
詳細・お申し込み：広報すぎなみ1月1日号掲載
お問い合わせ：sugiyu70@gmail.com

消費者行動を見直そう

では、私たちは日常で何ができるでしょうか。気候変動に密接に関係しているものの一つが、食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」です。日本では生ゴミとして焼却処分されますが、水分を多く含むため、焼却時に膨大なエネルギーが使われ大量のCO₂が発生します。一方、埋め立て処分を行っている国の場合は、CO₂の25倍を超える温室効果のあるメタンが発生しています。

驚くことに、世界で生産される食料の40%が廃棄処分されているそうです。その際に排出される温室効果ガスは全排出量の8～10%を占めています。これは、車の排出量10%に匹敵する非常に高い数値で、食品ロスを削減すれば気候変動対策として極めて高い効果が得られることは明白なのです。

日本で廃棄されている食品の量は、家庭から247万トン、事業者から275万トン、合計522万トンにのぼり、その量は世界全体が援助している食料の約2倍に相当するそうです。皆さん、スーパーで賞味期限の長いものを棚の奥から取り出していないですか？ お惣菜の種類が多いお店を無意識に選んでいませんか？ 私たち日本人は、食べ物の品質について厳しい感覚を持っています。それはとても誇らしい文化である反面、図らずも大量の食品ロスを生み出す根本的な要因となっていました。

私たちは今、豊かな未来を創ることができるか否か、岐路に立たされています。今回の特集では、対応策の一例として食品ロス問題を取り上げましたが、負の遺産を次の世代に押し付けないためにも、生活全般を見直し行動していく必要があります。本やインターネットで調べたり、イベントに参加して学ぶことも温暖化対策に繋がる大きな一歩となるでしょう。

開催済 ユネスコ料理教室 「災害時、何を食べる？ どう作る？」

日時：2022年10月15日（土）
講師：川村みどり氏（元母親クラブけやき会会長）
万が一の災害時にも、身近にある缶詰や乾物、野菜を使って温かく栄養バランスに配慮した食事を摂りたいですね。湯煎して作る「ポリ袋料理」とハサミを使う「空中料理」で簡単に作れる8品を紹介しました。（次号の記事で掲載します）

ユネスコ運動の日 講演会・展示会

テレジン収容所の若き画家たち

2022年9月18日(日) 永福和泉地域区民センター

講師 野村路子氏 (テレジンを語りつぐ会代表)

第2次世界大戦下のナチス政権で、幼い生涯を閉じたユダヤ人の子どもたち。アウシュヴィッツ強制収容所に送られる直前、小さな街・テレジンの収容所で、非人道的な扱いを強いられていた。そんなある日、「子どもたちの笑顔を取り戻したい」と、収容所内に教室が開かれた。講師のひとり、若き画家のフリードル・ディッカーさんは、絵を描くことを通して、生きる希望を与えるのだった――。



提供 野村路子

テレジン収容所とは

チェコの首都プラハから北へ60キロほど離れたテレジンに、1941年から1945年まで置かれていたナチス・ドイツの強制収容所。テレジンに送られてきたユダヤ人は約14万4000人。そのうち3万3000人が病気、飢え、過労、そしてドイツ兵による暴行や拷問、刑罰などによりテレジンで亡くなり、8万8000人がアウシュヴィッツなどの「絶滅収容所」に送られ、そのガス室で殺された。



野村 路子 (のむら・みちこ)

1937年東京生まれ。早稲田大学第一文学部フランス文学科卒。雑誌の編集者などを経て、作家として活動。

1989年にプラハでテレジンの子どもたちの絵に出会い、その普及に尽力する。1994年『テレジンの小さな画家たち』で、産経児童出版文化賞大賞を受賞。



▲会場に展示された、テレジン収容所の子どもたちの絵と、当時の状況などを説明するパネル。絵には作者である子どもの情報と、絵が描かれた経緯が記されている。

2022年の「ユネスコ運動の日」では、テレジンを語りつぐ会代表の野村路子さんを招き、講演会を行った。台風14号による風雨のなかではあったが、参加者・スタッフあわせて53名が、絵画との出会いから現在まで、野村さんの半生に耳を傾けた。

野村さんとテレジン収容所の子どもたち

タウン誌の編集長などを歴任してきた野村さんが、転機を迎えたのは1989年。娘と訪れたチェコスロバキア(当時)のプラハで、何の気なしに入った博物館から、すべてが始まった。ひと目見た絵画が忘れられず、チェコ大使館へアポなしで訪問。そこから偶然に偶然を重ね、イスラエルでテレジン収容所からの生存者らと出会った。

13歳でテレジンへ送られたディタ・クラウスさんを筆頭に、生存者の壮絶なエピソード。そして、それを「日本で語りつぐ」野村さんの葛藤や心情描写に、来場者は息をのむ。長年親交を温めてきたディタさんは、現在93歳だという。コロナ禍を迎えてからもメールのやりとりを続けてきたが、今春から連絡が

取れていないとのことで、心配している様子が印象的だった。

会場では展示会も併催され、部屋を取り囲むように、テレジンを語りつぐ会所蔵のパネルが並んだ。パネルの絵画には、子どもたちの名前と生年月日、そしてアウシュヴィッツへ送られた日付も記されている。来場者は静かに、しかしながら熱を込めて、1枚1枚を眺めていた。

野村さんがプラハを訪れたころ、まだ現地は共産圏だった。冷戦が終結してから30年あまり。資本主義と共産・社会主義の対立は、以前ほど目立たなくなったものの、いまなお世界の覇権争いは続き、情勢は安定しない。そうした現状を、先の大戦と重ね合わせて、平和への思いを強くした参加者も多かったのではないかと。

終演後のアンケートでは、イベントに対して好意的で、絵画に「涙した」との声も届いた。杉並ユネスコ協会のイベントに初めて参加したという人も多く、活動の裾野を広げる意味でも、有意義な行事になったと言えるだろう。自由記述欄にもまた、平和に対する思いが、数多く寄せられた。

歴史を語りついでいくために

私自身も、後世に遺すことの重要性を、改めて考えさせられた。杉並ユネスコ協会では毎年、青年部を中心に広島スタディーツアーを実施しているが、筆者の学生時代にお話をうかがった被爆者は、次々と鬼籍へ入られた。杉並をはじめとする、民間ユネスコ活動もまた、発足から70年の時を経て、「語りつぐ」意味と向き合う機会が増えてきた。

先人たちの思いを、働き盛り世代の自分たちが受け継ぎ、次世代を担う子どもたちへ、いかにバトンを渡していくか。SDGsやESD(持続可能な教育のための開発)を通して、「持続可能な(Sustainable)」という概念が、広く知られるようになった。末永く続けるためには、一過性ではいけない。たとえインパクトが弱くても、長く、そして広く、伝え続ける必要があるのだろう。

フリードル先生は、みずからの危険を顧みず、子どもたちに絵を教え続けた。そして1枚の絵が完成するごとに、作者の名前を記すよう促した。インターネットの普及で、匿名によるコミュニケーションも珍しく

なくなった。しかし、名のなき発言は、責任も感情も薄れてしまう。思いを後世に届けるためには、誹謗中傷が飛び交うなかでも、あえて実名を出す覚悟が必要になるときがある。これから先、名前を付けた「生きた証」を、いくつ残せるのだろうか。(城戸譲)

参加者の感想(アンケートより抜粋)

- テレジン・野村路子さんのことを初めて知りました。……絵の学校(教室)を作った大人、フリードル女史の子どもたちにやれることは何かを考えたこと、野村さんの何かやれないかと考えたことに感銘しました。
- 野村さんの言葉の1つ1つに重みがあり、心にグッときました。子どもたちの絵もそれぞれストーリーがあり、涙なしでは観られませんでした。
- 野村さんが最後に話された小学校での講演の話が印象的でした。経験がなくてもきちんと説明すれば、子どもたちにも伝わること、また伝えることの大切さを実感しました。

ユネスコ教室 2022

8月7日(日)～10日(水) 高円寺学園

1962年に始まったユネスコ教室が、今年で59回目を迎えました。59回目になっていた2020年度と2021年度は、新型コロナ感染拡大により中止になり、今年の実施も危ぶまれましたが、宿泊を中止し、4日間の東京で開催の運びとなりました。セシオン杉並が改修工事中でもあり、杉並区立高円寺学園の小アリーナを午後から借り、募集中学生20名として、規模を縮小した実施でした。高円寺学園は、2020年開校した新築の学校であり、冷房の効きが大変よく快適な環境でした。コロナ感染と熱中症について、万が一の場合を想定して、十分な対策を準備したのですが、何事もなく順調に実施することができました。

1日目(8月7日) 開級式・ユネスコ紹介
2日目(8月8日) JICA地球ひろば訪問

1日目は、青年部によるユネスコ紹介・SDGs・JICA(国際協力機構)についてのプレゼン等があり、JICA見学と3日目のSDGsワークショップに備えた導入となりました。2日目のJICA訪問では、密にならないように2グループに分かれて行動し、海外協力隊の体験談は、グループ別にケニアとモンゴルの話でした。地球ひろばにおける体験見学では、SDGsに関するテーマ別の展示があり、楽しみながら学ぶことができました。特に、「世界各国のSDGs達成状況がわかる」展示では、読み取り装置に国のカードを入れると、17項目別の達成度が表示され、予想外の結果が面白い展示でした。

3日目(8月9日) 国際交流プログラム
4日目(8月10日) 国際交流プログラム・閉級式

3日目と4日目には、インドネシア、インド、フィリピン、ハンガリー、中国(2名)の計6名の外国人が参加。3日目のSDGsに関する作業と4日目のゲーム、スポーツ大会で国際交流が行われました。3日目



JICA地球ひろばでSDGsの説明を受ける



SDGsの現状について学ぶ



世界の課題について考える



解決策を提示する

は、SDGsについて自分事として取り組み、班ごとに問題提起をしながら、現在の世界の課題を模造紙にまとめる作業をしました。4つの班の各テーマは、「ジェンダー平等の現状と解決策」「食品ロス」「貧困をなくそう」「水についてみんなで考えてみた」となり、JICAで学んだことを参考に、意見を出しあいながら、各班とも説得力あるまとめをしていました。4日目は、青年部の企画により、ゲーム・ドッチボール・歌とダンスなど盛りだくさんの交流プログラムを楽しみました。学校が異なる中学生との交流、外国人との交流を通して、世界が少し広がったことと思います。

時間的にも短いユネスコ教室でしたが、参加した中学生・企画を担当した青年部・10代から50代までの外国の方々にとって、SDGsを確認することができたことと思います。まず学ぶこと、そして行動することにつながるユネスコ教室であることを期待しています。最後に社会教育センターの大きなご協力に感謝いたします。(朝倉洋子)

感想 ● ユネスコ教室を終えて

今年のユネスコ教室実施への道は想像より険しいものでした。特に宿泊ができないことは大きな壁となりました。異文化の人との生活共有を経験できないため、よりプログラム自体にメッセージ性や目的意識が求められるからです。毎週末の部会では構成や内容の案を飛び交わせながら、協力・工夫して準備を進めていきました。

その結果、収穫の多い教室にすることができました。SDGsの17の目標それぞれの繋がりに気づき、学びを生活に生かそうとする参加者や、レクリエーションで参加者同士に友情が生まれている様子も見られました。音楽やダンス、Tシャツ制作など様々な場面で青年部や参加者の個性が輝いていました。

すべての関係者の皆様のおかげで、ユネスコ教室を多くの人にとって有意義な学習の場とすることができました。本当にありがとうございました。(青年部部長 神谷光穂)

中学生クラブ UNESCO Junior High School Club

5月 チェコ

講師はペトル・ホリーさん。日本大好き・チェコ大好きの方でした。チェコの料理の話や日常生活を流暢な日本語で分かり易く紹介してくれました。ホリーさんの話を聞いていると、ホリーさんから見た日本のよい所をたくさん聞くことができ、中学生・参加者の気持ちを和ませてくれました。



7月 ウクライナ

オンラインでの開催でした。講師は大学生の喜納天志さん。小中学校の4年間、現地のインターナショナルスクールに通っていたそうで、興味深い食文化の話などをしてくれました。ウクライナはよい所で、戦争が終わったら現地へ行って、復興に向けて手伝いをしたいと語っていました。



6月 ミャンマー

講師はナン・チー・チー・トゥンさん。ミャンマーは多民族であること、仏教徒が多いこと、世界遺産バガンや暗記中心の学校教育についても話してくれました。今は国が大変だけど、落ち着いたらミャンマーにぜひ来てもらいたいというナンさんに、中学生も大きくうなずいていました。



9月 インドネシア

講師はワヒュさん。インドネシアの食文化やコーヒーの話、民族衣装をまとった賑やかな踊りを映像で見せてくれました。驚いたのは首都移転の話。ジャワ島のジャカルタからカリマンタン島のヌサンタラに、近々首都を移すそうです。人口過密化や大気汚染が主な理由とのこと。日本人にとってはビックリです。



(佐藤直子・岩野智)

ユネスコ 科学教室



羊ってどんな動物？

2022年8月20日(土)
高井戸地域区民センター
講師 原田佐和子氏
(科学読物研究会)



▲原田佐和子先生

モコモコの毛が可愛い羊。でも意外と知らないことがたくさんあります。人間と暮らし始めたのは1万年ほど前から。品種改良により1000種類ほどいるそうです。尻尾は短い印象がありますが、これは赤ちゃんの時に人間の都合で切ってしまうから。元々は長い尻尾があるのです。歯は下あごに平たく包みみたいな歯があり、目は顔の横。これらは草食系動物の特徴です。

羊はどんなところに使われているのでしょうか。羊毛(ウール、フェルト)や羊肉(ラム、マトン)がすぐ思い浮かびます。実は人間の衣食住すべてに関係しています。モンゴルでは遊牧民のゲル(移動式住居)の天井や壁に、大きなフェルトが用いられています。先生は羊1頭分の毛を広げて見せてくださいました。重さはなんと3キロ以上!

続く実験では、刈り取ったままの羊毛をぬるま湯と洗剤につけて漂白してみました。あっという間に白くなります。次にカラフルな羊毛を石などに巻きつけ、石鹸で泡立てた手のひらでフェルトの生地を作ります。最後に、それを用いて思い思いのフェルト作品を作りました。参加者の方々の楽しそうな姿がとても印象的でした。(岩野智)

次回の
科学教室

ドクタートミーの恐竜教室「足跡のいろいろ」

「第8回すぎなみサイエンスフェスタ」に出展

日時 2023年1月15日(日) 時間未定
会場 高円寺学園(杉並区高円寺北1-4-11)
講師 富田京一氏(肉食爬虫類研究所代表)
詳細 広報すぎなみ12月1日号掲載



杉並ユネスコ合唱団 コーラス大会に参加

2022年10月9日(日)、杉並区コーラス連盟のコーラス大会が開催され、杉並ユネスコ合唱団も参加しました。新型コロナウイルスのため3年ぶりの開催で、杉並公会堂で行われました。今回はエドワード・エルガー作曲のラテン語の2曲、Ave Verum CorpusとAve Maris Stellaを歌いました。今年も指揮者の小澤純先生、伴奏者の増澤明希子さんには大変お世話になりました。11月から第2、第4木曜日の午後7時から、主に阿佐谷地域区民センター音楽室で練習する予定です。ぜひ一緒に歌いましょう。(石井明日香)

杉並ユネスコ協会会報 147号 2022年11月4日発行

発行者 杉並ユネスコ協会 会長 佐藤直子

事務局 〒167-0043 東京都杉並区上荻2-34-10 山田正方
TEL 090-6105-6633 FAX 03-3399-0339 E-mail suginami@unesco.or.jp

編集 杉並ユネスコ協会広報担当

口座 ゆうちょ銀行/記号10040 番号18974381(ゆうちょ銀行間での振込)
店名〇〇八(ゼロゼロハチ) 店番008 番号1897438(他行からの振込)

みずほ銀行/荻窪支店 普通口座 番号4047995

ホームページ <http://suginami-unesco.org/>

活動予定

2022年11月 November

- 4日(金) 理事会
- 10日(木) 杉並ユネスコ合唱団練習
- 12日(土) 中学生クラブ(英会話と国際理解)
- 24日(木) 杉並ユネスコ合唱団練習

12月 December

- 2日(金) 理事会
- 7日(水) 平和のためのポスターコンクール表彰式
- 8日(木) 杉並ユネスコ合唱団練習
- 10日(土) 中学生クラブ(イヤーエンドパーティ)
- 22日(木) 杉並ユネスコ合唱団練習
- 26日(月)~ 青年部 南相馬スタディツアー
- 28日(水)

2023年1月 January

- 12日(木) 杉並ユネスコ合唱団練習(予定)
- 13日(金) 理事会
- 14日(土) 中学生クラブ(英会話と国際理解)
- 15日(日) 科学教室「ドクタートミーの恐竜教室『足跡のいろいろ』」(詳細は8頁目)
- 22日(日) 杉並ユネスコ協会新年会
- 26日(木) 杉並ユネスコ合唱団練習(予定)

2月 February

- 3日(金) 理事会
- 5日(日) ユネスコのつどい講演会「気象キャスターと考える地球温暖化」(詳細は3頁目)
- 9日(木) 杉並ユネスコ合唱団練習(予定)
- 11日(土) 中学生クラブ(英会話と国際理解)

※新型コロナウイルスの感染状況等により、日程が変更になる場合があります。